

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	教育学部
大項目	11 教員・教員組織
中項目	
小項目	11.0.1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
要素	教員に求める能力・資質等の明確化 教員構成の明確化 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 完成年度である2013年度以降の教育学部再編に併せて教員組織の検討を行う。	→「将来ビジョン委員会の開催頻度」	B
2. 教育学部の特徴として免許資格取得が可能となる教員組織を整備する必要があり、その点に留意して再整備を進める。	→「教育学部再編に当たっての取得できる免許資格の検討と、それに対応した教員組織の整備」	B
3. 教員の採用・昇格の学部内の内規・申し合わせの点検と評価を行う。	→「内規及び申し合わせの見直し作業の進捗状況」	B
4. 教員の資質の向上と授業改善を図るため、FD研究会を開催する。	→「FD活動にかかわる研修会等の開催頻度と参加者数」	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆	小項目 11.0.1	(方針) 教育学部の理念・目的及び再編計画に合致した教員組織を編成する。 (現状説明) 再編計画の検討にあたり、将来ビジョン策定のなかで、新しい教員組織のあり方を検討をしている。
☆	小項目 11.0.2	新規に臨床教育学科に教職課程を設けるため、1名の新規採用を行い、教員組織の整備を図った。
☆	小項目 11.0.3	2010年度は新規採用人事を1件、昇任人事を3件行った。いずれも規程に従って適切に行った。また昇任人事に関わる学部内規の整備を行った。
☆	小項目 11.0.4	2010年度は2回の学部FD研究会を行い、授業運営のあり方の検討や教育内容の共有化を行った。
☆	その他	

《特定6項目データ》

本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

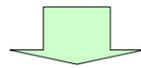
【教育学部】			単位	2006	2007	2008	2009	2010	備考
指標1	専任教員1人あたりの学生数 (ST比)		人	/	/	/	7.9	17.6	
指標2	必修科目および選択必修科目に対する専任比率	専門教育	%	/	/	/	100.0	100.0	
		教養教育	%	/	/	/	41.5	25.0	
指標3	専任教員の年齢別構成 (分布)			/	/	/	→	→	大学基礎データ表21参照
指標4	教員組織における女性教員の比率		%	/	/	/	36.6	35.0	
指標5	本学出身の専任教員の構成比率		%	/	/	/	2.4	2.5	

注) 指標5は学部、研究科、研究所、センターを対象とする。

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

★	小項目 11.0.1	
	小項目 11.0.2	
	小項目 11.0.3	
	小項目 11.0.4	
	その他	



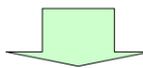
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

★	小項目 11.0.1	
	小項目 11.0.2	
	小項目 11.0.3	
	小項目 11.0.4	
	その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

★	小項目 11.0.1	
	小項目 11.0.2	
	小項目 11.0.3	
	小項目 11.0.4	FD研究会の実施とともに、教育研究活動の評価が必要である。
	その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

★	小項目 11.0.1	
	小項目 11.0.2	
	小項目 11.0.3	
	小項目 11.0.4	教育研究活動の評価を実施する。
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

なし

【学内委員】

○小項目11.0.1の現状説明における(方針)は方針そのものを記載してください。
 ○各小項目、目標それぞれについて適切に評価されています。
 ○50代の教員割合は30%を大きく超えており、その是正には時間がかかると思われませんが注意をお願いします。
 ○FDに関する目標と指標を設定することが望まれます。
 ○大学基準協会の「評価に際し留意すべき事項」(ハンドブックP78～)において、水準評価として数値による評価がなされるものに注意してください。「8. 教員組織 ③専任教員の年齢構成のバランスが取れている」については「学部として、61歳以上が35%を超える場合は助言、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上でみたとき、各年代の全体に占める割合が30%を超える場合は助言になることもある」とされています。本水準を満たすことは大変難しいことですが、本水準を念頭におき今後の教員人事をお考えください。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

11.0.1「現状説明」の(方針)を下記のように修正。

★ (方針)教育学部の理念・目的及び再編計画に合致した教員組織を編制する。幼児・初等教育学科においては、実践的な教育力を育てられる教員を配置し、臨床教育学科においても、教育現場で実務経験を持つ教員を配置する。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

11.0.0.S1	専任教員一人あたりの在籍学生数
11.0.0.S2	開設授業科目における専任比率
11.0.0.S3	専任教員の年齢別構成
11.0.0.S4	教員一人当たりの授業時間数
11.0.0.S5	本学出身の専任教員の構成比率
11.0.0.S6	海外の大学で学位を取得した専任教員の比率
11.0.0.S7	教員組織における実務家教員の占める割合(専門職大学院に限定)
11.0.0.S8	教員組織における女性教員の占める割合
11.0.0.S9	任期制教員(契約教員)の採用数
11.0.0.S10	実験実習指導補佐、教務補佐、授業補佐の採用数
11.0.0.S11	ティーチング・アシスタント(TA)の採用数
11.0.0.S12	契約助手の採用数
11.0.0.S13	実験助手の採用数
11.0.0.S14	リサーチ・アシスタント(RA)の採用数
11.0.0.S15	公募制による採用教員の数

<個別的な指標>
